

第8編

鹿児島市立病院年表

昭和	年号	年	月	事項
昭和	15	15	4	<p>鹿児島市立診療所発足 初代所長松本正己医博 紀元2600年事業として鹿児島市社会事業協会経営の実費診療所を買収して市立診療所とする。(病室約20人収容) 南林寺町1番地の診療所を本所とし、武町に支所をおく。</p> <p>武町支所を閉鎖</p>
	20	16	4	<p>鹿児島市立病院に改称 初代病院長松本正己医博 トラホーム診療所、尾畔(伝染)病院を合併し、病院事業を再編成する。</p> <p>鹿児島大空襲により病院全壊 民間病院(上竜尾町野元医院)を借用して診療を継続 野元医院空襲により焼失</p>
	21	21	7	<p>尾畔(伝染)病院にて診療を継続、その後更に鹿児島市役所の一角に仮診療所を開設 佐々木武男医博 第二代病院長に就任</p>
	22	22	7	<p>各科診療を開始(内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科) 鹿児島市尋常小学校跡地(山下町)に病棟を建設(病床数50床)、診療を開始</p>
	23	23	7	<p>歯科を開設 診療科目6科</p>
	23	23	5	<p>小児科を開設 診療科目7科</p>
	23	23	9	<p>放射線科を開設 診療科目8科</p>
	23	23	10	<p>加治屋町に病院移転完了、診療を開始 医療法第7条による病院開設許可 病床数160床 医師修練病院に指定</p>

25	4	10	皮膚泌尿器科を開設 診療科目9科 許可病床数104床(一般80床、結核24床)
26	3	6	入院患者への完全給食を実施 許可病床数123床(一般91床、結核32床)
27	4	4	市立病院附設准看護婦養成所を開設 許可病床数196床(一般91床、結核105床)
	5	7	鹿児島市立産院を併設 許可病床数210床(一般105床、結核105床)
28	4	4	尾畔病院の所管を保健所に移管 中央材料室を設置
29	4	12	結核病棟に完全看護を実施 許可病床数276床(一般105床、結核171床)
30	2	9	許可病床数290床(一般135床、結核155床)
32	8	9	総合病院としての承認を受ける コバルト60による治療開始 許可病床数314床(一般159床、結核155床)
33	8	10	市立病院附設准看護婦養成所を閉鎖 基準看護及び基準給食を開始

					39					38					37					36					35															
5	4	3	6	4	2	1	11	6	3	6	4	3	9	3	12																									
<p>尾畔（伝染）病院新築（伝染60床）、城西病院と改称 地方公営企業法の財務規定等適用 県下初の新生児血交換（Rhマイナス）に成功</p>					<p>基準寝具を実施</p>				<p>市立産院本院内に移転（20床） 許可病床数380床（一般260床、結核100床、産院20床）</p>				<p>妊婦ドック指定病院に指定</p>				<p>物療室を開設</p>				<p>「鉄の肺」を設置</p>				<p>短期人間ドックを開始</p>				<p>許可病床数360床（一般222床、結核138床） 第一期病院改築工事（1号館）完成 第二代病院長 佐々木武男退任 上高原勝美医博 第三代病院長に就任</p>				<p>第一期病院改築工事（1号館）着工</p>				<p>許可病床数302床（一般164床、結核138床）</p>			

			47		46	45		44	43		42	40	
	4	3		3	1		4	1	4	3	12	7	4
			患者治療及び浴用として温泉掘削（深さ747m、泉質弱アルカリ食塩泉、温度摂氏49度） 医師法に規定する臨床研修病院の指定を受ける	許可病床数470床（一般350床、結核100床、産院20床） 頭部外傷救急センター20床増床（救急ベッド50床に） がん診療施設用として40床増床 第一次病院整備事業本館建築着工 第一次病院整備事業2号館5・6階増築完成	第一次病院整備事業構想決定	地方公営企業法の全部適用とする 上高原勝美 初代病院事業管理者に就任 鹿児島市立病院労働組合結成	第三内科（循環器科）を開設 診療科目12科		頭部外傷救急センターを設置（病床数30床） 許可病床数410床（一般290床、結核100床、産院20床）		脳神経科を開設 診療科目11科	麻酔科を設置 診療科目10科 中央手術室を設置 リニアックによる治療を開始	救急病院の指定を受ける
													7

51	50	49								48			
1	7 1	10 6 5	4	11	10	9	5	4	12	11	5		
五つ子（山下ベビー）誕生（男子2人、女子3人 体重990g、1800g）	入院部門レセプト作成、基金請求、診療案内及び計算補助業務を民間委託 不妊クリニックを開始	中央カルテ管理室を設置 人工透析部を設置 いこいの森完成	鹿児島市立高等看護学校開校（三年課程、1学年30人） 2号館の1、2、4階を高等看護学校へ	第二内科（消化器）、整形外科を開設 診療科目15科	結核病床60床を一般病床へ転床 許可病床数470床（一般410床、結核40床、産院20床）	頭部外傷救急センターを脳疾患救急部に改組 第一次病院整備事業本館低層部完成	新患受付、外来部門レセプト作成業務を民間へ委託 外来患者診療時間を原則として午前診療とする	中央研究検査室、中央放射線室を設置 病棟看護婦の二・八制勤務完全実施 一般病棟を特類看護に、結核病棟を一類看護に変更	皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分科 診療科目13科	第一次病院整備事業本館高層部完成	歯科に口腔外科を設置		

55					54				53		52				
3	11	9	8	4	2			11	9	8	10	8	4	11	4
<p>五つ子誕生（男子2人、女子3人、体重1400g～1975g）</p> <p>許可病床数541床（一般481床、結核40床、産院20床）</p> <p>ICUに9床、CCUに2床を増床</p> <p>第三次病院整備事業（4号館）着工</p> <p>中央回復室を設置</p> <p>理学療法室の整形外科所管を解き、中央理学療法室に改組する</p> <p>産婦人科病棟に周産期医療センター（分娩センター）を設置</p> <p>分娩センターに20床増床</p> <p>許可病床数530床（一般470床、結核40床、産院20床）</p> <p>周産期医療センター（新生児センター、母子保健指導部）を設置</p> <p>新生児センターに40床増床</p> <p>脳疾患救急部を脳疾患救急センターに改称</p> <p>中央図書室を設置</p> <p>第二次病院整備事業完成</p> <p>院内を禁煙とし、本館1、2階待合ホールに喫煙コーナーを設置</p> <p>第二次病院整備事業（3号館）着工</p> <p>コンピュター付X線頭部断層診断システムを導入</p> <p>城西病院（伝染病院60床、旧尾畔病院）の運営について市と覚書を締結し管理運営を本院において受託する</p> <p>一般病棟を特二類看護に、結核病棟を特一類看護に変更</p> <p>五つ子プロジェクトチーム、第27回南日本文化賞受賞</p> <p>プロジェクトリーダー、産婦人科部長 外西寿彦</p>															

				63				62				61							
5	4	1	10	6	2	11	10	8	7	4	12	11	6	5					
医療相談コーナーを設置				死体腎移植を実施 小児外科を開設 診療科目17科				中国長沙市研修生第四回受入れ(王 一欣、陳 齊国) 病院駐車場を有料とする 病院検査及びカルテ管理を電算化 九州初の体外受精に成功(産婦人科(伊集院秀明、寺原賢人、榎園祐二、堂園光一郎、楠元博彦の医師スタッフ) 中国長沙市研修生第五回受入れ(黄 閔、張 艶青)				入院患者給食の夕食を6時給食とする 中国長沙市研修生第三回受入れ(何 小蓓、唐 元評) 鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市を訪問 団長 時任院長 外3人 期間 7・28～8・4 日帰り人間ドックを開始 入院患者面会時間を変更(午後3時から午後8時まで) 死体腎移植組織協力病院の指定を受ける(社)シン移植普及会 自治体立優良病院の表彰を受ける 全国自治体病院開設者協議会(社)全国自治体病院協議会				南九州初の腎臓移植を行う 東京女子医科大学腎臓センターの太田和夫教授の指導を受け、伊集院一成外科科長ら医師15人、麻酔科4人、看護婦8人で構成するグループが無菌手術室で実施 栄養管理業務の一部を電算化 病理研究検査室に電子顕微鏡を導入 中国長沙市研修生第二回受入れ(符 嶺華、余 暑純) 第二例目の腎臓移植手術を本院スタッフのみで実施			

平成		元		年		月		事		項		
5	4	3	2	10	5	4	3	4	10	5	4	
3	4	3	1	10	4	2	11	4	3	10	5	4
<p>心臓血管撮影装置導入 麻酔科 外来診療開始 救命救急センター棟等増改築工事中 中国長沙市研修生第七回受入れ(載 月梅、張 憲南) オーダリングシステム一部(処方オーダー)稼働開始 救命救急センターを救急部に改称 中国長沙市研修生第八回受入れ(彭 敏球、謝 宏) 救命救急センター棟完成 救命救急センター後方ベットとして20床増床 許可病床数661床(一般601床、結核40床、産院20床) 救急新体制の本格稼働 中国長沙市研修生第九回受入れ(張 莉、王 敏) 時任純孝 第二代病院事業管理者退任 MRI導入 外西寿彦 第三代病院事業管理者に就任 体外衝撃波結石破碎装置導入</p>												

9	7	中国長沙市研修生第六回受入れ(馮 飛、孫 長立) 鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市訪問 団長 大司総看護婦長 外4人 訪問期間 9・28) 10・9
---	---	---

9	8	7	6		5		4		3		2		1		
1	3	1	3	2	1	11	10	8	5	4	3	9	8	7	4
給与管理システム導入	骨密度測定装置導入	全土曜日外来診療を休診とする	高気圧酸素治療装置導入	阪神・淡路大震災医療活動応援隊第二陣・第三陣派遣	阪神・淡路大震災医療活動応援隊第一陣派遣	立体駐車場(第三駐車場)完成(111台収容)	特三類看護へ移行(579床)	防潮施設整備工事完成	特三類看護へ移行(354床)	許可病床数681床(一般601床、結核40床、伝染20床、産院20床) 外西文庫開設	5号館完成	13号台風災害	8・6豪雨災害	5号館着工	武弘道 第四代病院事業管理者に就任
										第2、第4土曜日の外来診療を休診とする。 鹿児島市立病院併設(伝染棟供用開始(20床))				外西寿彦 第三代病院事業管理者逝去	中国長沙市研修生第十回受入れ(黄紅光、王西香)

「記録集」になることを願っている。
アキラの「河畔」増刊号の「美園」

2年の「河畔」1月号に「通

1年務めて定年退職する美園

（元南日本新聞記者

柳田英夫）

鹿児島市立病院史Ⅱ

発行日／2019(平成31)年2月

編さん者／鹿児島市立病院史編さん委員会

発行者／鹿児島市立病院
鹿児島市上荒田町37番1号

制作／南日本新聞開発センター
